

専門職支援員に関する実践報告



横浜国立大学
D & I 教育研究実践センター



Vision ビジョン

障がい等のある子供で伸ばせる能力を
まだ十分に伸ばせていない子供を
支援して社会で活躍する人材に

障がい等の有無に関わらず多様な他者と
協働することを歓迎できる人材に

障がい等があっても専門的で適切な
支援を受け高等教育に進学

インクルーシブな環境で育つ子供たち



就労人口の増加に貢献

多様性を歓迎できる大人に



Mission 概要

“共生社会の実現を担う次世代育成プロジェクト”

「共生社会」の担い手となる次世代人材を育成

▶ “共生社会の実現を担う次世代育成プロジェクト”とは ◀

インクルーシブな教育環境のなかで、障がい等の有無に関わらず、すべての子供が多様な他者と協働・共生する力
とセンスを身につけ、「共生社会」の担い手となる次世代人材を育成することを目指します。



Action 活動

「共生社会」の担い手となる人材を育成するためのインクルーシブな教育環境を創ります



「専門職支援員」の派遣と養成



障がいや疾病等により支援を必要とする子供が在
籍する学校に、高い専門性を有する人材(専門職支
援員)を派遣します。

専門職支援員養成のためのカリキュラムを構築し、高い
教育的スキルと援助・コミュニケーション能力を有す
る人材を養成します。

教育環境の充実



コストを抑制し迅速な学校施設のバリアフリー化を
行い、教育環境を充実させます。

継続的データ収集による 教育実践の効果検証



量的、質的データを継続的に収集し、教育実践の
効果を検証します。



専門職支援員

横浜国立大学
D&I教育研究実践センター

- ①チーフ・サポートスタッフ
特別支援教育等を専門とする大学教員
- ②メイン・サポートスタッフ
小・中・高・特別支援学校の
教員免許を有する教員等
- ③スチューデント・サポートスタッフ
特別支援教育を専攻する学生

地域の医療、福祉等の関係機関
④エキスパート・サポートスタッフ

- 看護師
- 心理士
- 介護福祉士
- 理学・作業療法士

定期的にサポート

- ①は、活動全体の管理責任者、学校・保護者との
連絡・相談窓口②、③がメインで、支援を必要とする
児童生徒等へのサポートを実施

支援に対する情報共有

- ・関係者で支援状況等に関するミーティング
- ・学校への支援記録&報告書の提出

必要に応じてサポート

- ④は、医療・福祉・心理等に関する支援を
必要とする児童生徒が在籍する場合、各専門
のスタッフが入り、サポートを実施

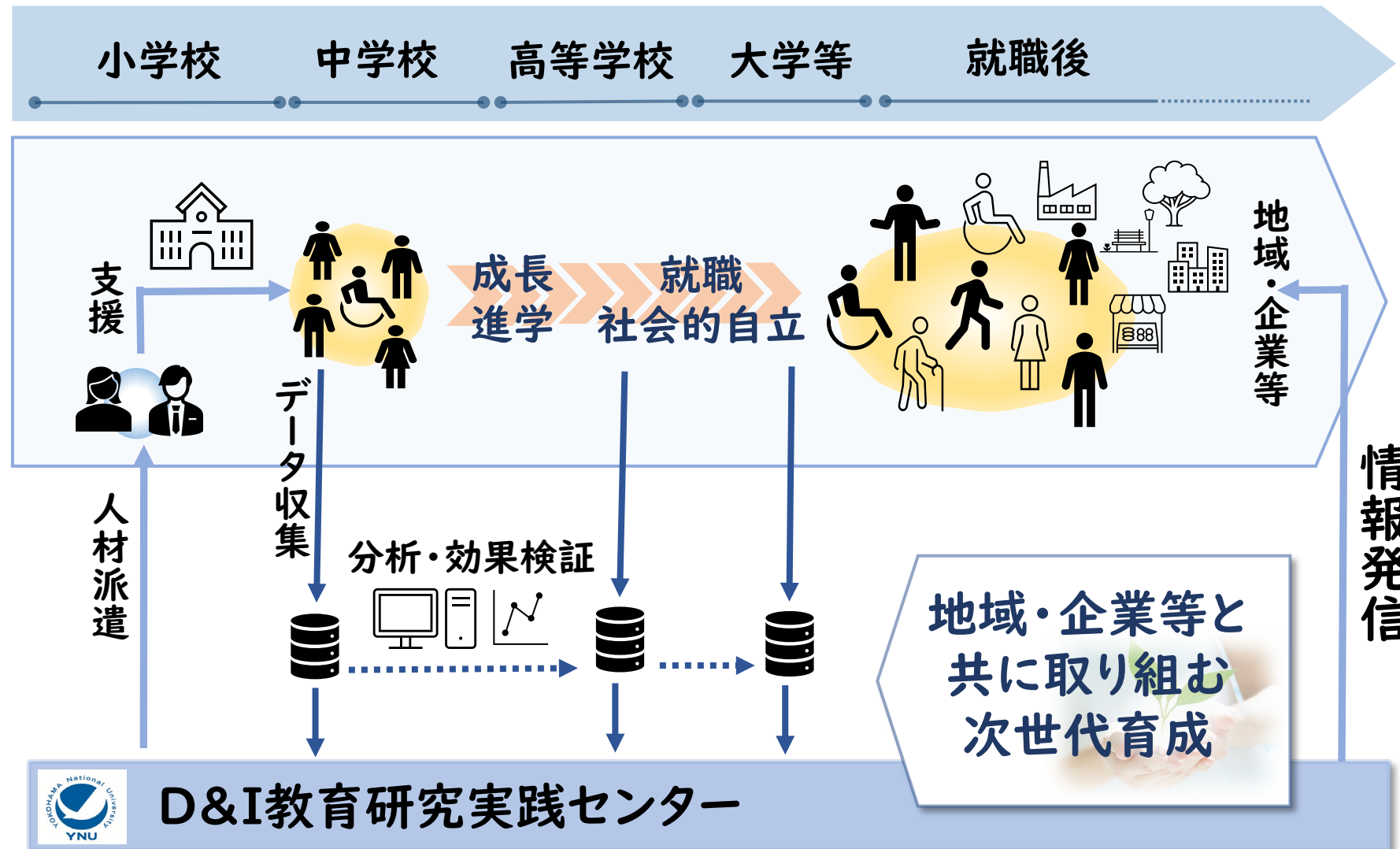
学校現場



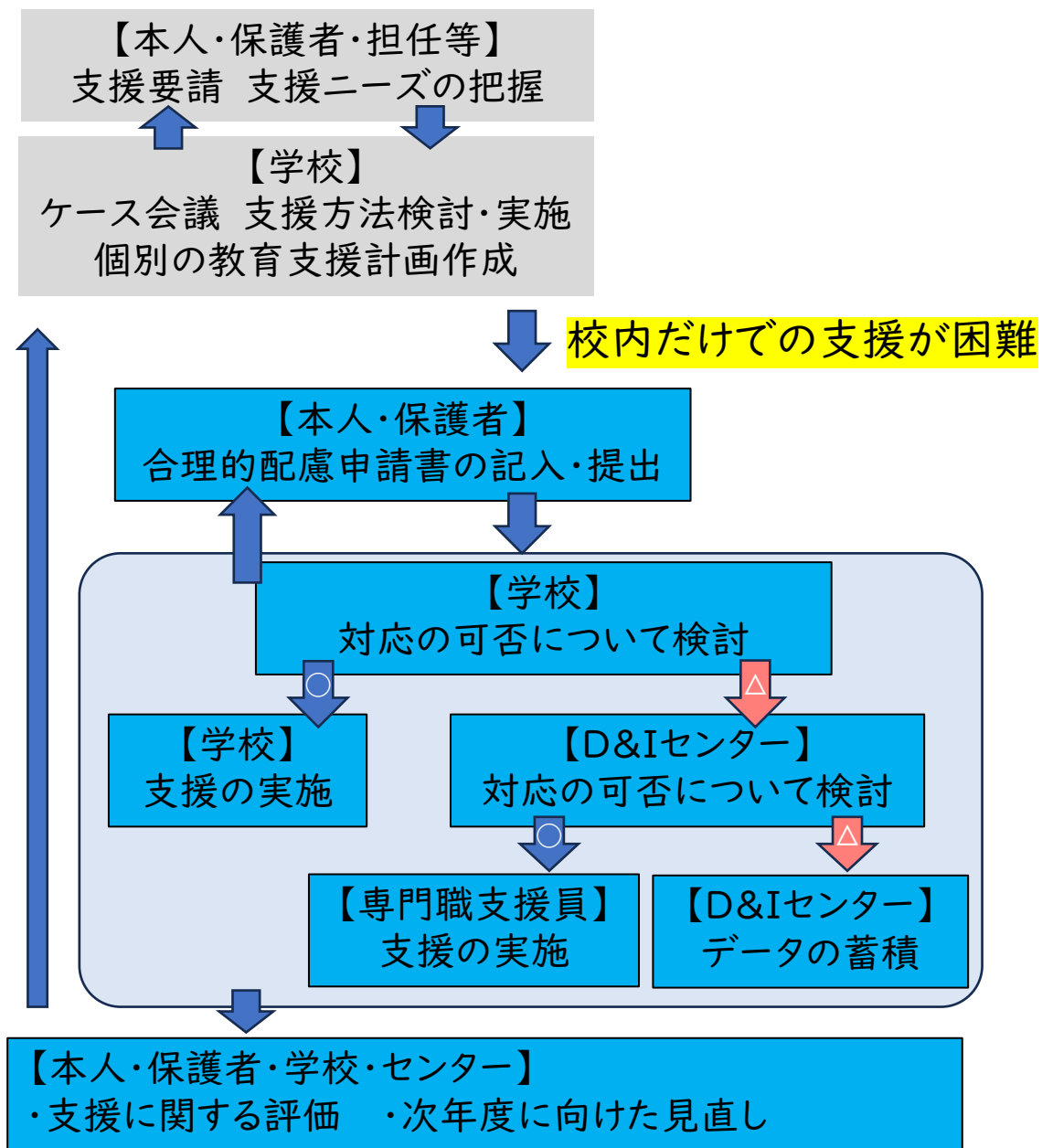
サポートスタッフによる
支援イメージ



共生社会の実現を担う次世代育成プロジェクト



専門職支援員 派遣までの流れ



合理的配慮申請書

合理的配慮申請書

令和 ____年 ____月 ____日

____学年 ____組

児童名: _____

保護者名: _____

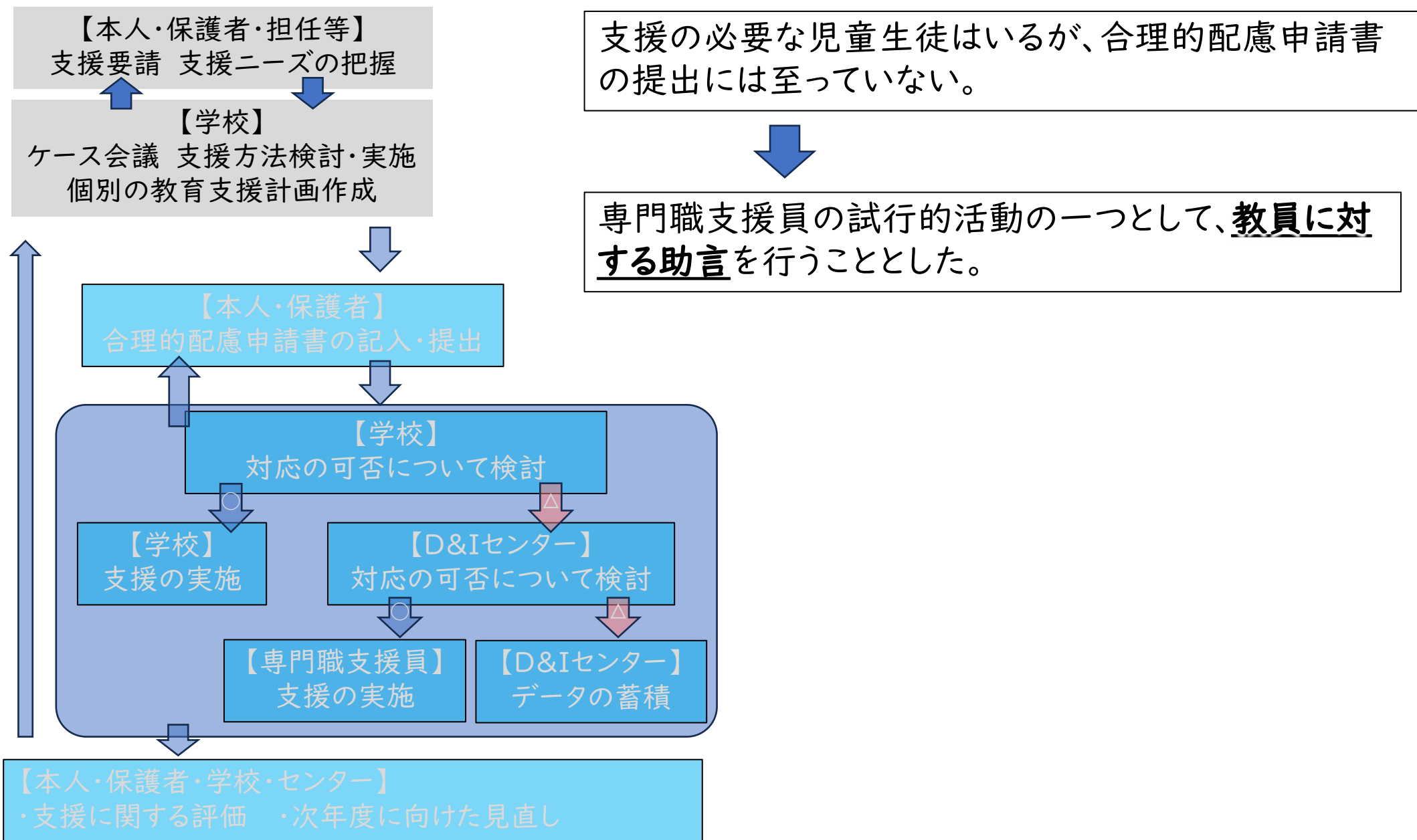
学校生活や学習における配慮等について次の通り申請します。

1. 学校の生活や学習にあたり配慮を希望する事項(簡条書きで記入してください。)

2. 希望する理由(具体的に記入してください。)

横浜市立義務教育学校での実践

専門職支援員派遣事例（横浜市立義務教育学校）



義務教育学校 小学部の実践

ベースラインデータの取得

【児童生徒】

- ・YP 学級適応感
- ・学習状況
- 基礎学力 学習プリント等
- ・授業参加
- 写真 動画 …等

【教師】

- ・意識調査
- ・指導方法
- ・使用教材



教師

- ・アセスメントへの不安
- ・指導方法のアップデート
- ・ICT機器の活用
- ・教育効果への不安 …等

→専門的なサポートを希望



横浜国立大学

D&I教育研究実践センター



児童・教師の変容

- ・児童 YP、標的行動の増加
- ・教師 指導行動↑ 負担感↓



個人・集団に向けた

授業形態・指導方法・環境等の工夫

→誰一人取り残さない学びの実現



学年会等で検討
(チーム支援)



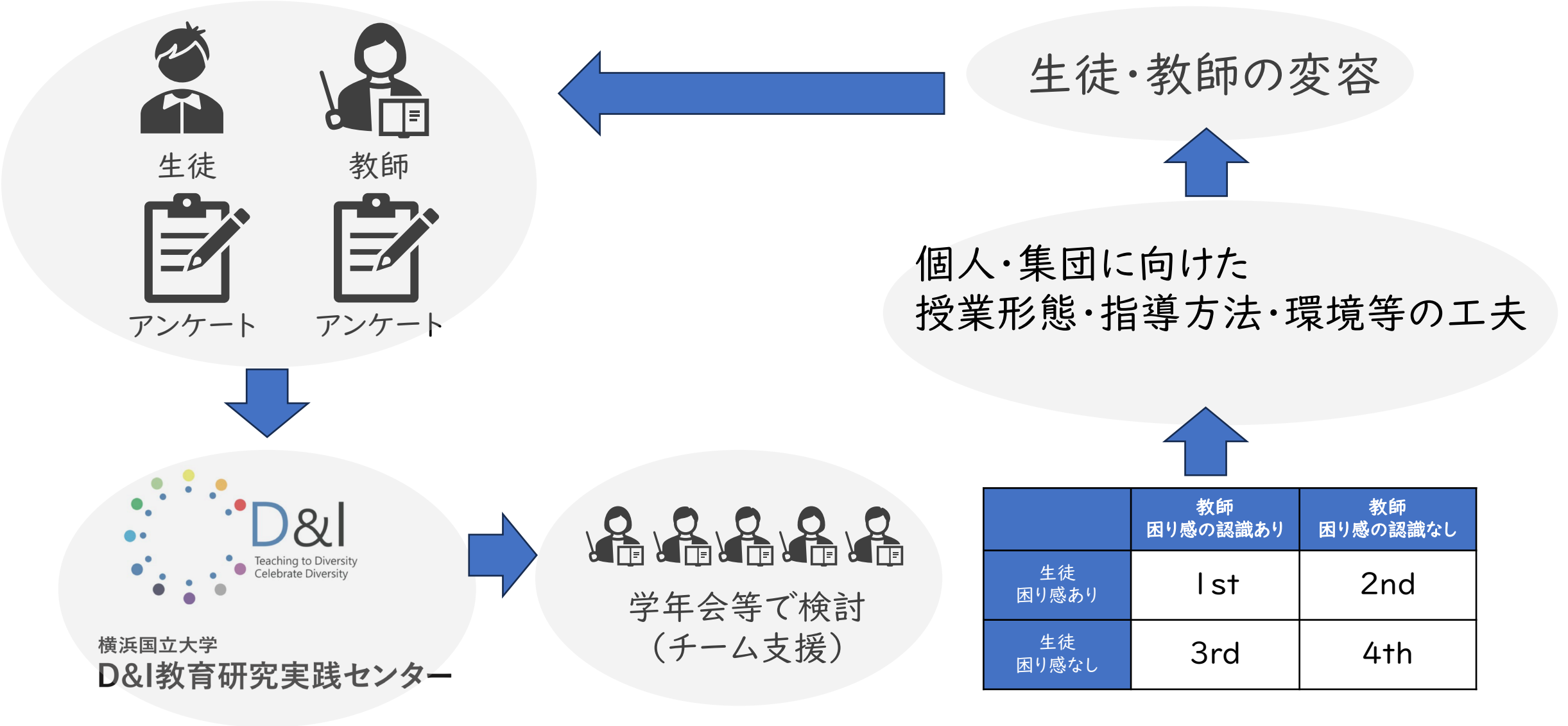
専門職支援員の派遣

【年間の動き】

- ①児童に関するアセスメント(行動観察)
- ②支援の必要な児童に関する支援方法の提案
- ③保護者対応へのアドバイス
- ④専門職支援員の派遣(心理士)によるコンサルテーション
- ⑤授業分析(授業動画撮影)
- ⑥児童への直接的なサポート

義務教育学校 中学部の実践

「自分たちの指導と生徒の実態が合っていないような気がする・・・。」



中学部の先生方への説明資料

分析結果について



生徒



教師



アンケート



アンケート

一致率

※生徒の回答を基準

生徒 - 教員 = 認識の差異

(例) 5 - 5 = 0 (一致)

生徒 - 教員

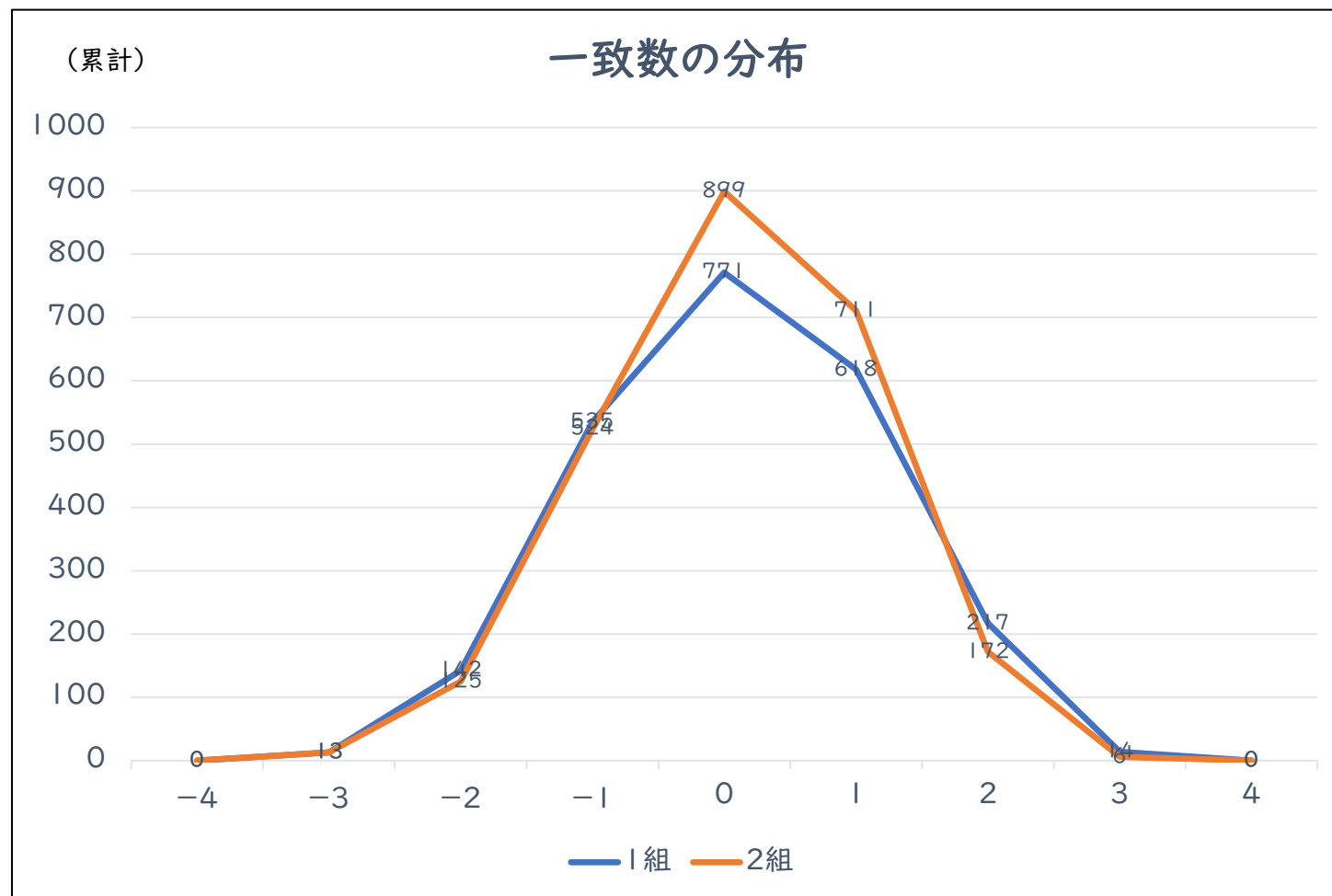
2 - 5 = -3 (高く評価)

生徒 - 教員

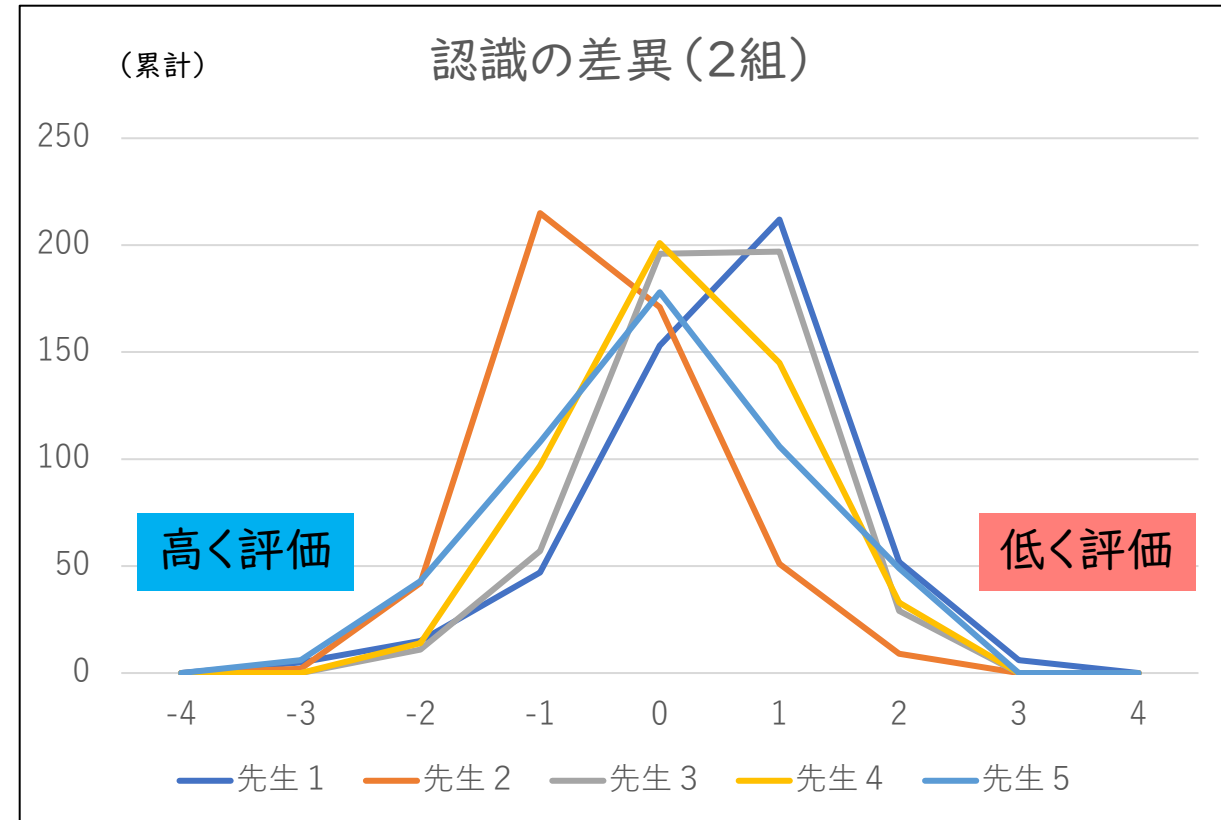
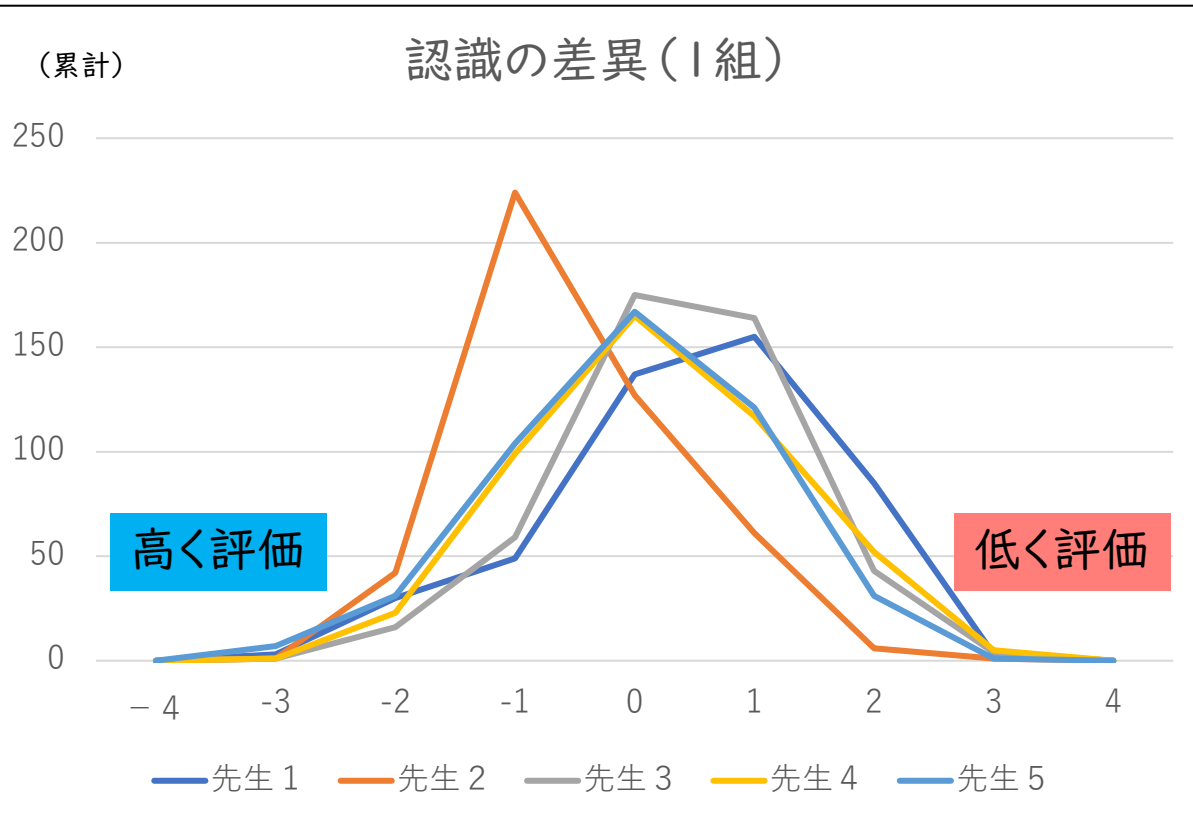
5 - 2 = 3 (低く評価)

一致率はどのくらいでしょうか？

35 %



分析結果について



先生1・先生3 ⇨ (生徒評価より) 低く評価型

先生2 ⇨ (生徒評価より) 高く評価型

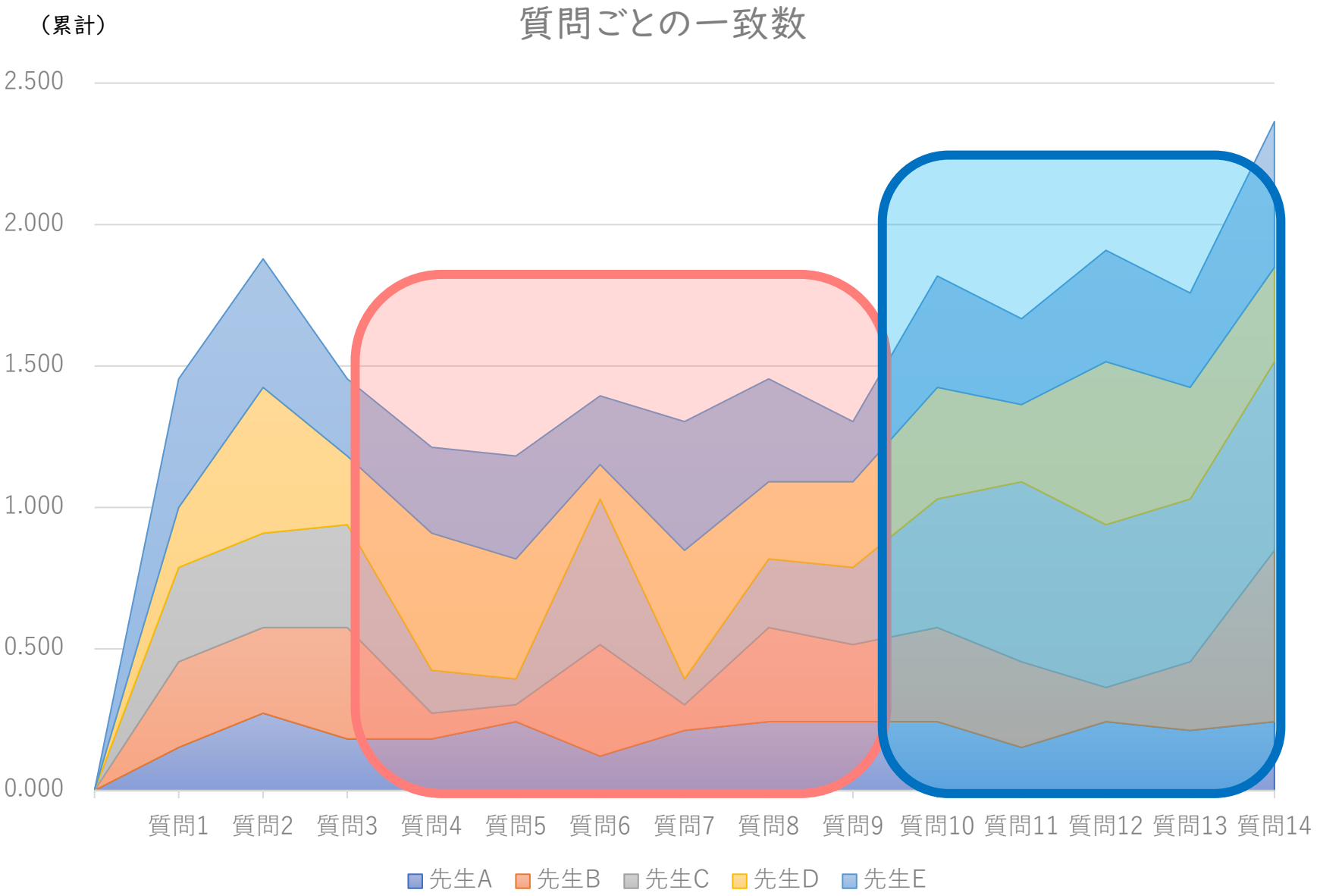
指導傾向との関連も？

先生4・先生5 ⇨ バランス型

分析結果について

質問項目 (Y-Pアセスメント活用)

①	わたしは、自分で決めたことは、うまくいかないことがあっても、最後までがんばります。
②	わたしは、友だちやクラスの人の役に立っています。
③	わたしは、何かをするとき、うまくいかないのではないかと心配することが多いです。
④	わたしは、自分のことを大切な人だと思います。
⑤	わたしは、自分のことが好きです。
⑥	わたしは、いやなことに挑戦しないで、逃げだしてしまうことがよくあります。
⑦	わたしには、いろいろな良いところがあります。
⑧	わたしががんばって勉強すれば、わたしの成績は、良くなります。
⑨	わたしは、友だちの言いなりになってしまうことがあります。
⑩	わたしは、難しそうなことでも、とにかくやってみます。
⑪	わたしは、クラスの友だちと一緒にいると楽しいです。
⑫	わたしは、クラスの友だちに大切にされています。
⑬	わたしは、今のクラスが気に入っています。
⑭	わたしは、このクラスになって良かったと思っています。



先生方の感想として

【一致率について】

5名の平均値 → 35%

5名の予想（20%、60%、60%、30%、45%）

- ・生徒との認識の差異があることで、自分の指導方針があっていない可能性がある。

【教員間での認識の傾向について】

- ・生徒との認識の差異があることで、自分の指導方針が合っていない可能性がある。
- ・教員間の差異があることで、多面的な視点で生徒の実態把握ができるのではないか。
- ・教員自身が自分の傾向を客観的に知ることができる。
- ・集団内における生徒の相対的な様子を認識することができる。

【今後について】

- ・多様な背景をもつ生徒が参加可能となる授業の工夫（従来の授業からの変化）
- ・指導の効果を確認することの重要性

横浜国立大学教育学部附属横浜小学校での実践

附属学校における持続可能な共生社会の実現に向けた教育の在り方及び今後の本学附属学校が果たすべき役割について

横浜国立大学教育学部附属学校の在り方検討委員会報告書より

■ 鎌倉地区

地域に寄与するモデル校として、
『持続可能な社会創生に向けた小中一貫教育による附属学校』
－ 9年間を見通したカリキュラムの創造と実践 －

■ 横浜地区

地域の旗艦校、国のモデル校として、
『共生社会創生に向けたインクルーシブ教育による附属学校』
－ 障がいの有無、外国にルーツのある児童生徒等を包摂する教育の実践 －



ダイバーシティ戦略推進本部による
「共生社会の実現を担う次世代育成プロジェクト」

D&I教育研究実践センターを基盤とした産官学連携インクルーシブ教育環境推進事業

地域の学校における「学校経営方針の変更」

本校の使命及び学校目標を具現化するために、職員が一丸となって創造的かつ実践的に、そして楽しく教育活動に取り組んでいきたいと考えています。これまでの本校の歴史と伝統の上に立ちつつ、**社会の変化に伴って教育の場として要請されている諸課題を真摯に受け止め、創造的かつ実践的に附属小学校ならではの新しい学校のあり方を提言**していきます。

附属横浜小学校HPより引用

1 創造の精神を持つ、主体性のある子 自分を高めようとする子	2 民主的精神を持つ社会性のある子 よりよい社会をつくる子
3 人間尊重の精神をもつ、人間味のある子 広く豊かな心をもつ子	4 生命尊重の精神をもつ、健康な子 強くたくましい子

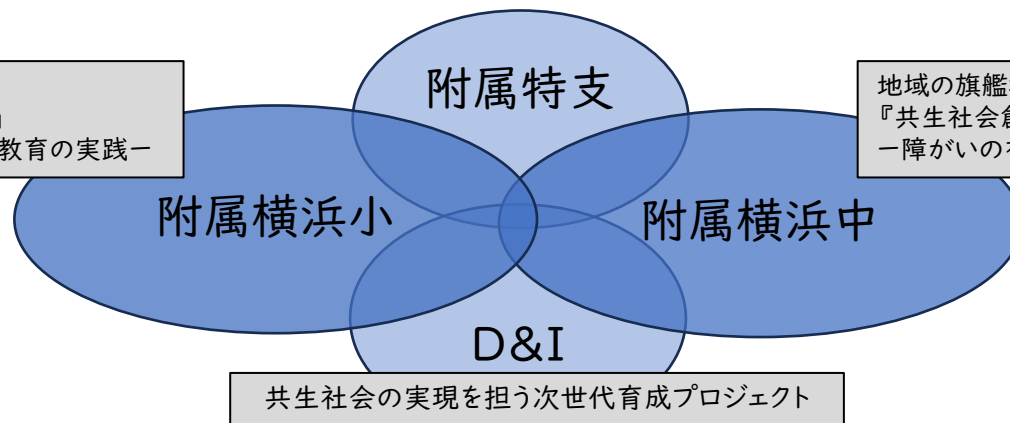
普通教育 研究実践 教育実習



地域の旗艦校、国のモデル校として、
『共生社会創生に向けたインクルーシブ教育による附属学校』
－ 障がいの有無、外国にルーツのある児童生徒等を包摂する教育の実践 －

地域の旗艦校、国のモデル校として、
『共生社会創生に向けたインクルーシブ教育による附属学校』
－ 障がいの有無、外国にルーツのある児童生徒等を包摂する教育の実践 －

地域の旗艦校、国のモデル校として、
『共生社会創生に向けたインクルーシブ教育による附属学校』
－ 障がいの有無、外国にルーツのある児童生徒等を包摂する教育の実践 －



附属小学校としての課題

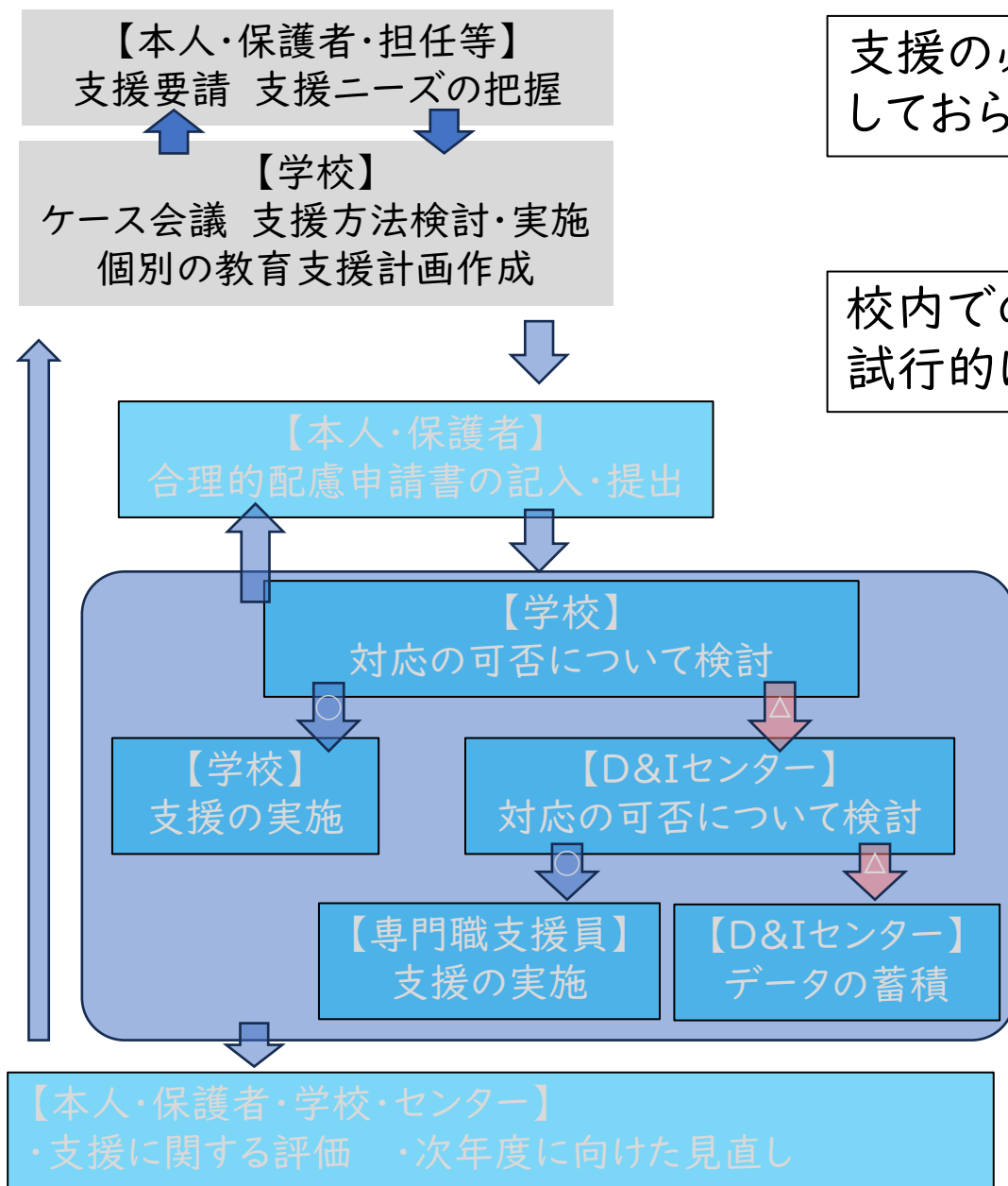
【現状】

- ・様々な地域の学校から教員が派遣されている。
- ・独自の取り組みが多く、公立小学校のようなシステムを導入しにくい。
- ・研究実践、教育実習等があり、多忙である。

【プロジェクトの実践に向けた課題】

- ・地域ごとの教育資源の違いから校内支援体制の構築が難しい。
- ・個人が抱えている業務が多く、情報共有が難しい。
- ・人事異動等により人の動きが多く、校内のシステムが定着しにくい。

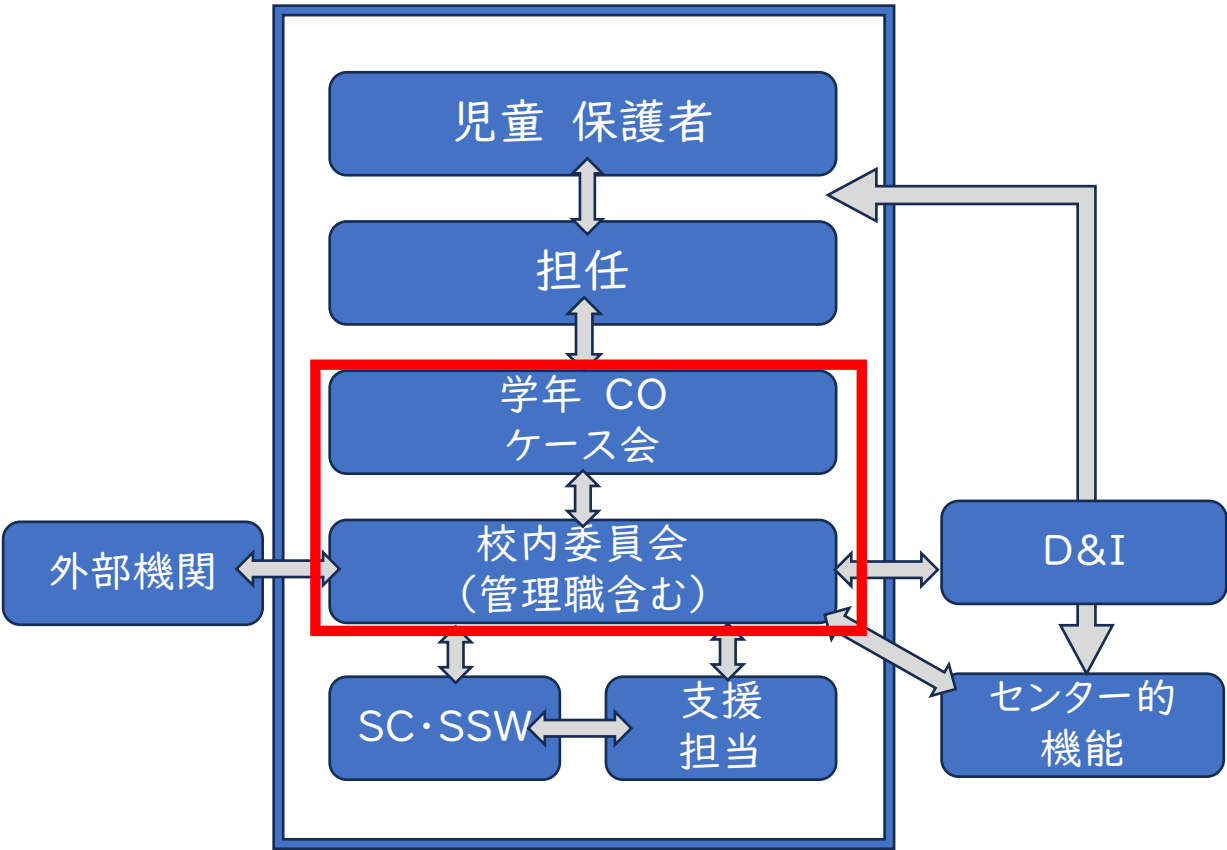
専門職支援員派遣事例（附属横浜小学校）



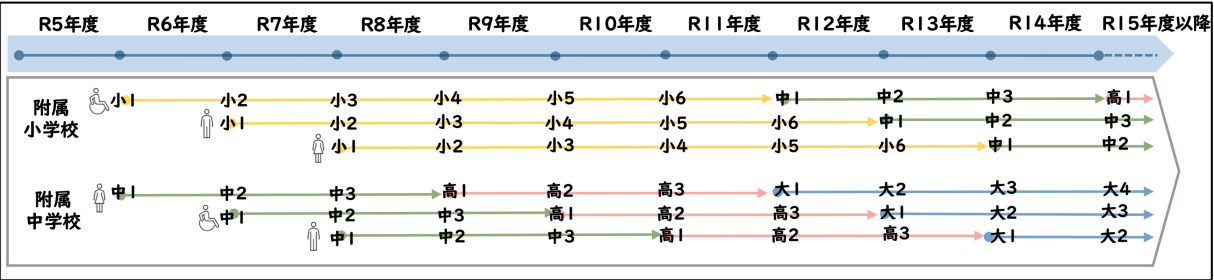
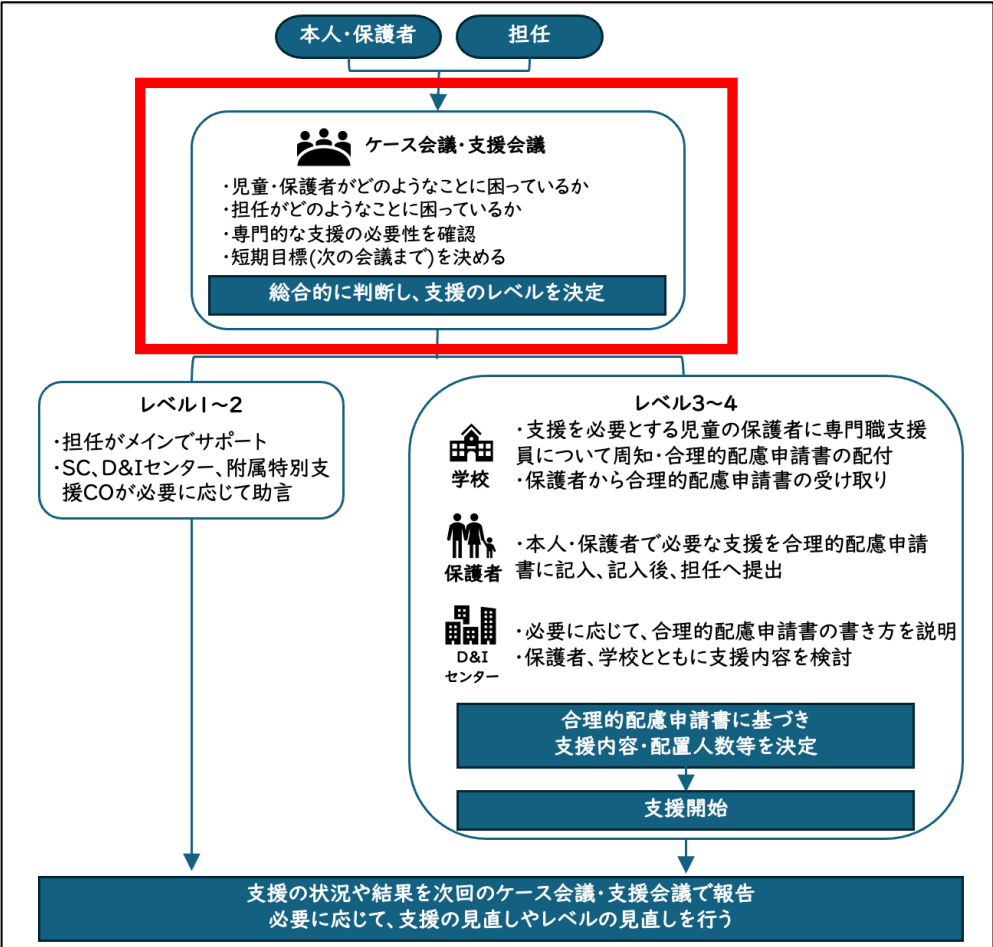
支援の必要な児童はいるものの校内の相談体制が確立しておらず、担任、学年で対応することが多かった。

校内での支援体制の強化を目指し、専門職支援員を試行的に派遣した。

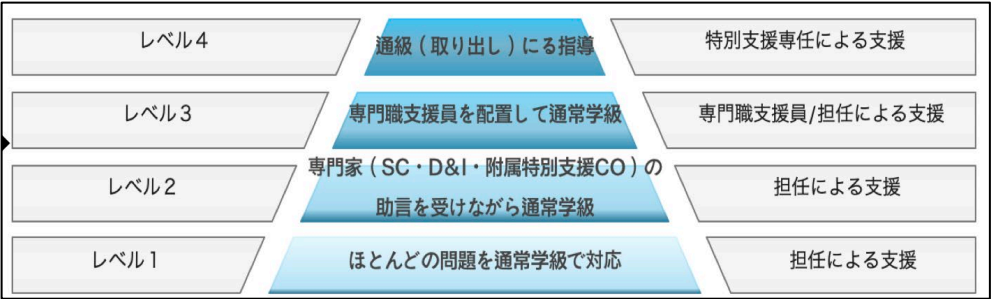
小学校における支援の一般的な流れ(想定)



合理的配慮申請における流れ



対象児童は段階的に増えていくものの、すぐに対象を増やすことが困難な状況



令和6年度の計画

	校内				校外	
学年	SC ①	SC ②	SSW	支援 担当	センター 的機能	D&I
6年	校内での運用				○	△
5年					○	△
4年					○	△
3年					○	△
2年					○	△
1年					○	※○
					合理的配慮 申請書なし	合理的配慮 申請書あり
					コンサル 児童への直 接的な支援 は行わない。	直接支援 児童への直 接的な支援 も行う。

学校との相談の中から

- (1) SC、SSW、支援担当 校内での従来通り運用
- (2)特別支援学校におけるセンター的機能の活用
特支校CO+特支校・共生社会推進グループの協力
→他学年への支援を強化
- (3)他学年の児童に関する担任、学年等への相談
→従来の説明通り対応は可能
- (4)他校での現状 校内での相談体制の整備
(個別の教育支援計画等の作成)
→合理的配慮申請書提出→専門職委支援員の配置
- (5)プロジェクトに対する認識の乖離がある状態での
専門職支援員の配置は控えたい。(※)
→対象の児童・保護者との面談、支援方法の検討
→主体は学校 D&Iは協力機関

専門職支援員の派遣について

【校内支援体制の構築に向けた助言】

○インクルーシブ部会への参加（月に1回）

インクルーシブ部会

（構成メンバー） 管理職 支援専任 養護教諭 各学年担当者1名

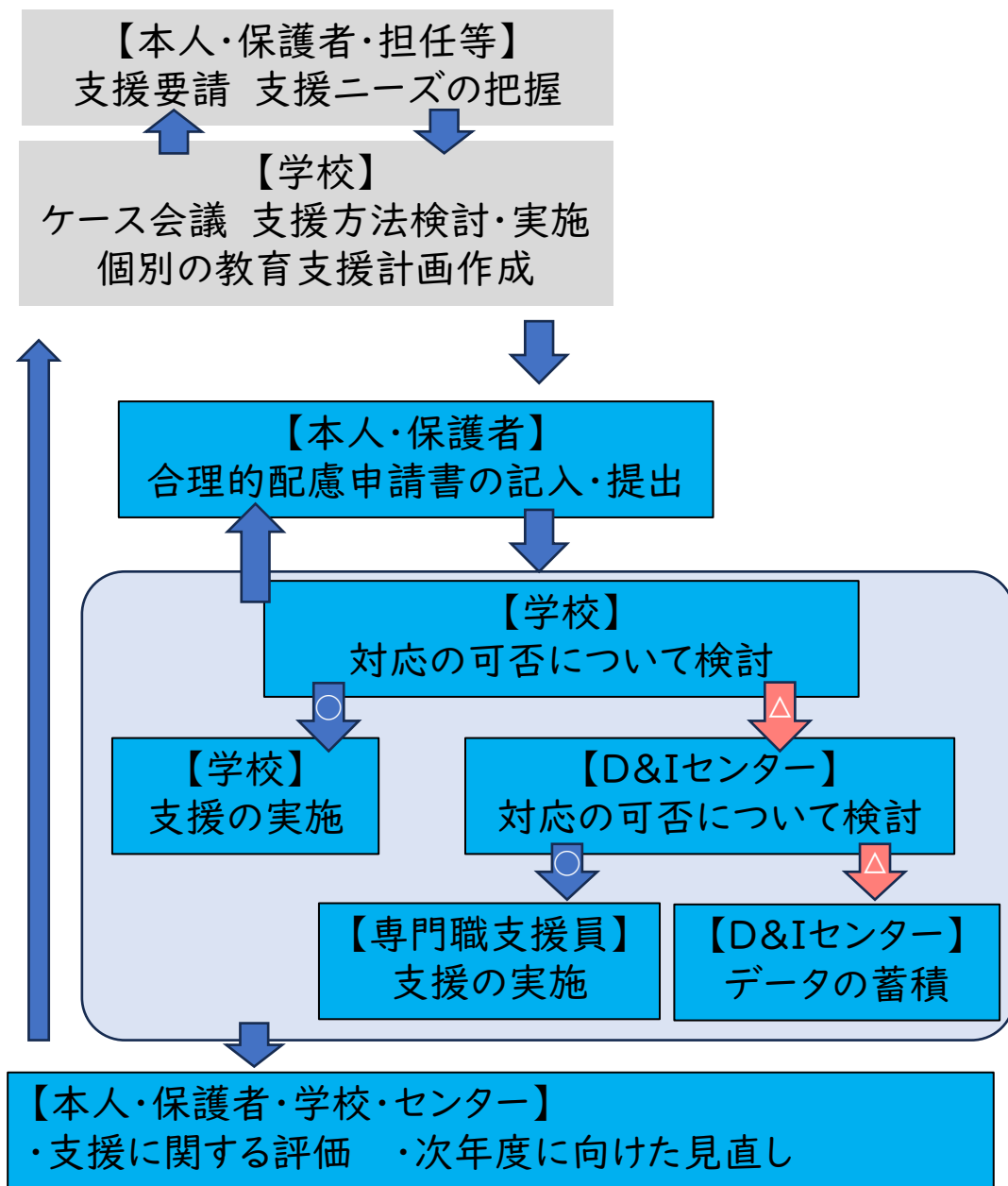
※主に校内での支援の必要な児童の情報共有と支援方法の検討をする

○専門職支援員の派遣

- ・プロジェクトの概要説明
- ・インクルーシブ教育に関する情報提供
- ・指導方法、支援方法に対する助言
- ・個別の児童に対するアセスメント

附属横浜中学校での実践

専門職支援員派遣事例（附属横浜中学校）



支援の必要な生徒はいるものの保護者に合理的配慮申請書を提出してもらうハードルが高い。

支援を必要としているが、支援につながらない。

学校側からの依頼で試行的に支援を行う。「連携のための情報提供書」

合理的配慮申請書 2件

→入試にかかる合理的配慮の提供

連携のための情報提供書 3件

→修学旅行支援 2名

→校外学習支援 1名

連携のための情報提供書

中学校から「合理的配慮申請書」または「連携のための情報提供書」



支援の詳細について協議



支援の実施

合理的配慮申請書のポイント

申請書の簡略化

記入者の負担を軽減させ、迅速な対応が可能

専門職員の重要性

主任会やケース会議にセンター職員が参加することによって、申請時の助言が可能

専門職支援員によるサポート

定期的な職員の派遣

週に1回の主任会への参加の他、毎週金曜日午後に派遣。

授業の様子等を参観することで、より深い生徒理解を伴う 支援が可能。

別室登校生徒への関与

別室登校生徒にも積極的に関わり、個別のニーズに対応したサポートを提供。

この取組により、生徒の安心感が向上。

入試時の合理的配慮

受検方法等申請書の活用

受検生が環境制約を感じず試験を受けられるよう、申請者の要望に基づき、最適化

D&Iセンターの協力

必要物品の調達や人的補助の提供を通じて、
受検生が安心して試験に臨める環境を構築

受検方法等申請書

令和 年 月 日

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校長

志願者氏名

保護者氏名

住所

生徒募集要項の4（5）に規定する志願者の受検方法等について次のとおり申請します。

1 検査の実施にあたり配慮して欲しい事項（箇条書きで記入して下さい。）

2 申請の理由（具体的に記入して下さい。）

車椅子使用の有無（該当する方に○印をつけてください。）

有 無

3 在籍小学校長の所見

上記の受検上の方法等に配慮が必要であると考えます。
（申請内容について追加することがあれば記入して下さい。）

令和 年 月 日

小学校名

電話番号

校長氏名 公印

成果と課題

人的支援の実績

大怪我をした生徒の修学旅行参加に際し、D&Iセンターが人的補助を提供。

教員の負担減や保護者の不安軽減な大きく寄与。

信頼と広報

教員と家庭の信頼構築を進めていく中で、センターの相談窓口としての認知度向上が今後の課題。

顔が見える関係づくりを心掛けていく必要がある。

次年度に向けて

- 「ニーズに応じて専門の職員を派遣する」ことの試行ができた。
- 密なコミュニケーションを行ない、学校の実態に応じた形を模索することができた。
- 「1年次から縦断的な配慮を実施していく」という方法について検討を行う必要がある。

横浜市立中学校での実践

- 1 合理的配慮申請書の提出から支援までの流れ
- 2 合理的配慮の提供 現状と課題

I 合理的配慮申請書の提出から支援までの流れ

配慮等申請書

本人・保護者から
合理的配慮の申請内容
について記載してもらう

横浜市立〇〇中学校長

令和 年 月 日

生徒名: _____

学年: 組: _____

保護者名: _____

学校生活や学習における配慮等について次の通り申請します。

1. 学校の生活や学習にあたり配慮を希望する事項(箇条書きで記入してください。)

2. 希望する理由(具体的に記入してください。)

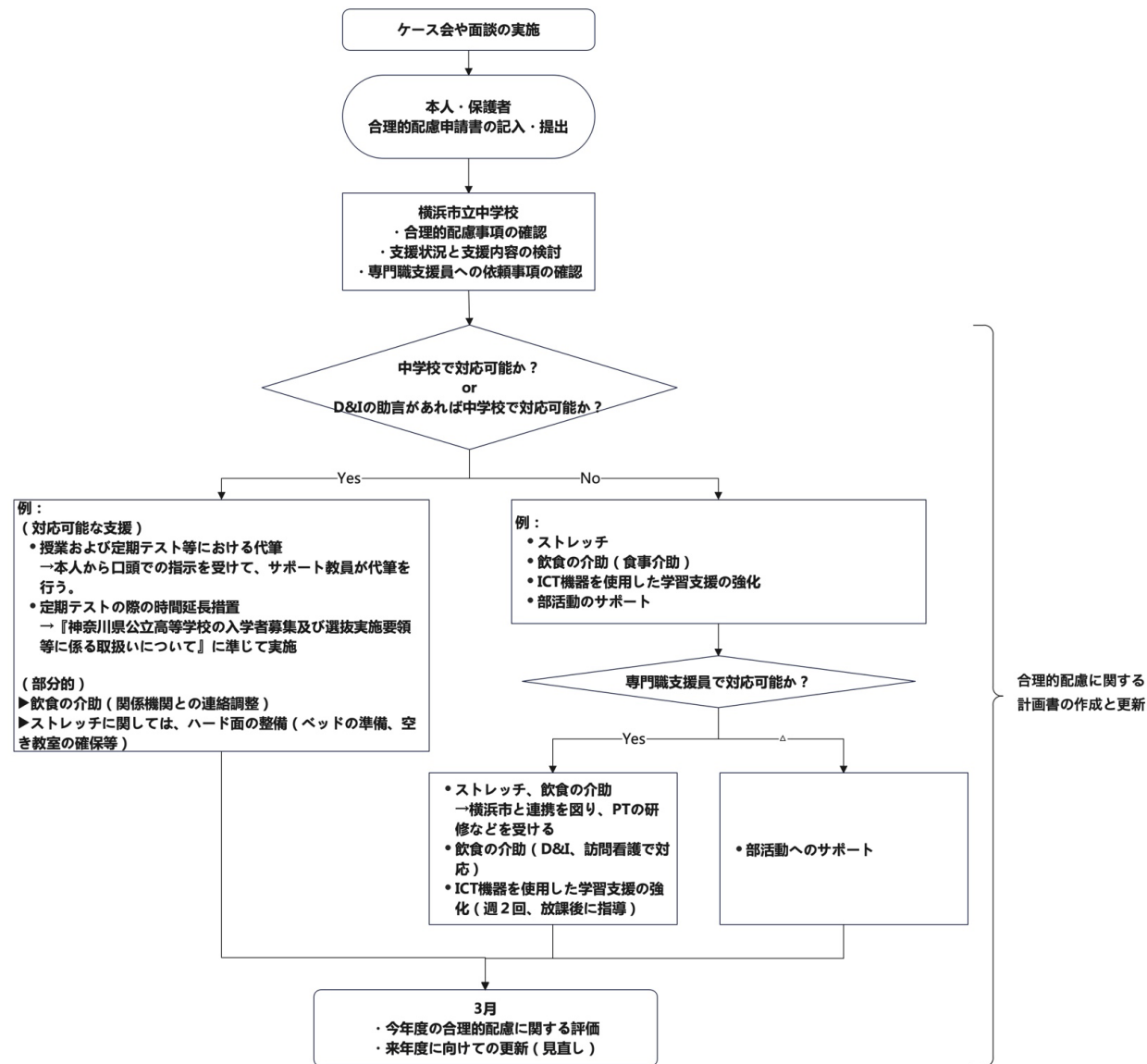
必要な配慮の記載例

- ・授業及び定期テスト等における代筆
- ・ストレッチができる横になれるスペースの確保
- ・飲食の介助
- ・ICTによる支援

希望する理由の記載例

- ・脳性麻痺のため首から下が自由に動かすことができない。
- ・定期テストの際は、代筆者への口頭伝達に時間を要するため時間延長を必要とします。

I 合理的配慮申請書の提出から支援までの流れ



I 合理的配慮申請書の提出から支援までの流れ

(例) 合理的配慮に関する計画書の作成

合理的配慮の提供 本人・保護者からの申し出	現状の配慮事項		目標		課題	
	学校の対応	D&Iの対応	短期	長期	ハード面	ソフト面
授業および定期テスト等における代筆	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート非常勤教諭が対応 ・定期テスト時は、代筆のため、別室を準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した音声入力による書字代替手段の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人から口頭での指示を受けて、代筆を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校入試に向けて、支援実績を積み重ねる。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張によって、人によっては、聞き取りが難しい場面がある。
定期テストの際の時間延長措置	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の1.5倍の時間で対応 ・別室で、定期テストを実施 例: 45分→70分 30分→45分	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・『神奈川県公立高等学校の入学者募集及び選抜実施要領等に係る取扱いについて』に準じて実施 		—	—

I 合理的配慮申請書の提出から支援までの流れ

(例) 合理的配慮に関する計画書の作成

本人・保護者からの申し出	現状の配慮事項		目標		課題	
	学校の対応	D&Iの対応	短期	長期	ハード面	ソフト面
横になれるスペースの確保とストレッチ	・教室と同じフロアに簡易ベッドを設置 ・移乗の補助	・給食後の休み時間にストレッチ	・本人も申し出を受けて、別室でストレッチを行う	・本人も申し出を受けて、別室でストレッチを行う	・本人の負荷がかからない車椅子の新調 ・体重の増加に伴い、介護用リフトの検討	・職員への研修 ・保護者への助言
飲食の介助	・関係機関との連絡調整（訪問看護、支援員、D&I）	・週に2回、給食の介助	・本人のペースに合わせた食事介助	・本人のペースに合わせた食事介助 ・食事介助を行えるスタッフを増やす（看護学生等）	—	・職員への研修 ・人員の不足 ・給食の時間が短い
ICT機器を使用した学習支援の強化	・ポケットWi-Fiなどのソフト面を整える。	・ICT機器の選定 ・週2回、放課後の時間にiPad（音声コントロール）を使った指導	・ICT機器の選定を行う ・Apple製品の機能、アクセシビリティを使い、音声入力による操作の獲得に向けた指導	・授業において、ICT機器を使用し、自立した学習場面を増やす。 ・日常生活でICT機器を使いこなし、学習方法や余暇の幅を広げる	・ICT機器の購入（デジタル教科書用のPC、顎で操作可能なマウス）	・デジタル教科書の購入の検討（横浜市の場合は自費）

- 1 合理的配慮申請書の提出から支援までの流れ
- 2 合理的配慮の提供 現状と課題

2 合理的配慮の提供現状と課題

定期テスト時における合理的配慮

- サポート教諭が代筆
- 通常の1.5倍の時間で対応
- 別室(図書館)で、定期テストを実施
- 漢字テストについては、読み問題のみで対応
- 昇降式のカットアウトテーブルで対応
- 書見台を使用し、本人が問題を見やすくするなどの工夫



1年4組 後期期末テストの日程 場所:図書室

1日目[2月17日(月)]

教科	英語	国語	保健
予鈴	8:55	10:20	11:45
時間	9:00~10:10	10:25~11:35	11:50~12:35

終了時下校

2日目[2月18日(火)]

教科	社会	数学	技術・家庭
予鈴	8:55	10:20	11:45
時間	9:00~10:10	10:25~11:35	11:50~13:00

終了時下校

3日目[2月19日(水)]

教科	理科	音楽
予鈴	8:55	10:20
時間	9:00~10:10	10:25~11:10

終了時下校

※試験時間...通常の1.5倍 45分→70分 30分→45分

10:51

2 合理的配慮の提供現状と課題

授業時における合理的配慮

- サポート非常勤教諭が代筆
- ミニテスト時は、廊下でテストを受ける
- 漢字テストは、読み問題の評価
- 本人の申し出に応じて、ストレッチ
- 昇降式のカットアウトテーブルと書見台で学習環境の工夫
- 学生が入り、他生徒とのつなぎ役になることも

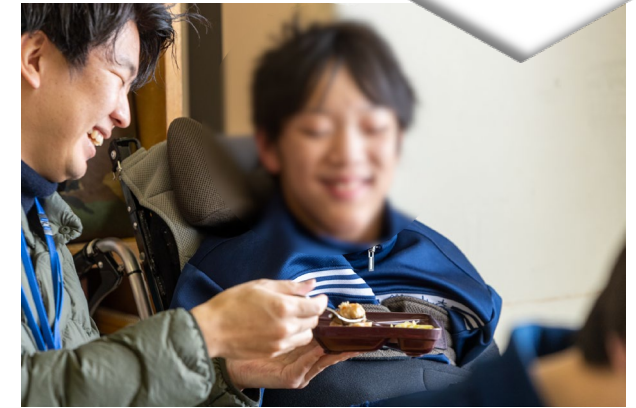


2 合理的配慮の提供現状と課題

その他学校生活における配慮

- ・食事介助では、週2回D&I、週3回訪問看護
- ・給食後のストレッチ

→横浜市教育委員会と連携を図り、理学療法士から研修を受ける



ICTに関する配慮

- ICT機器の選定
 - 週2回、放課後にiPadの使い方に関する指導
- 音声コントロール機能を使ってメールができるように
- 来年度以降は、デジタル教科書を使用し授業場面でもICT機器を活用

